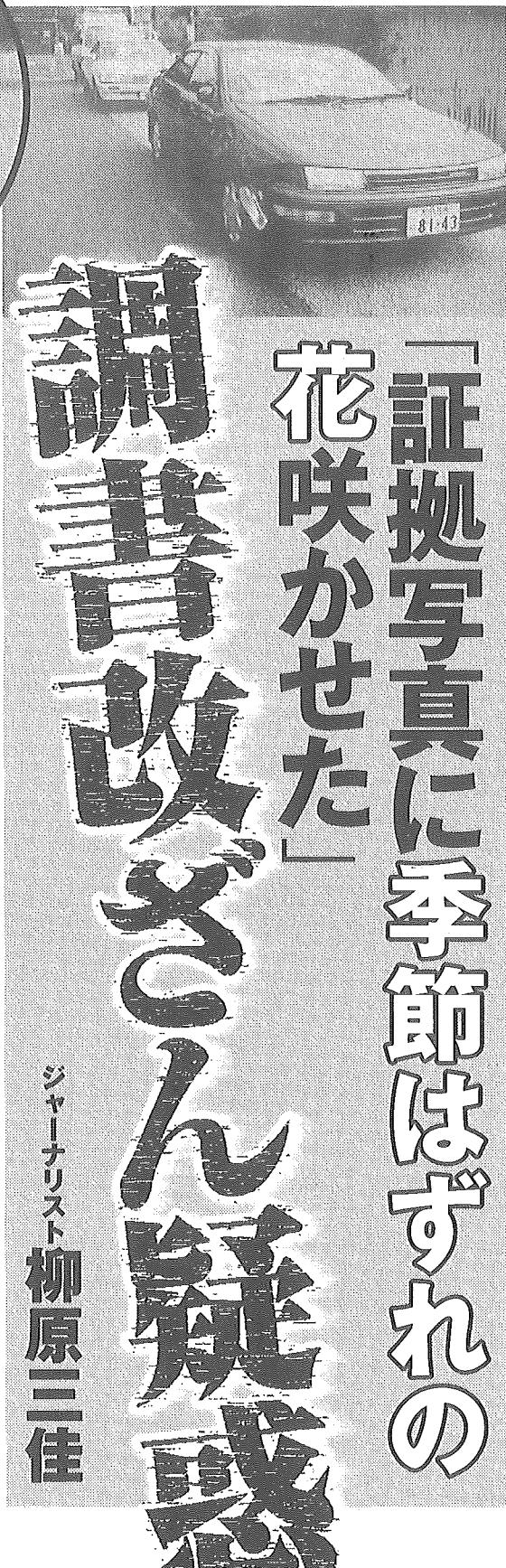


大分県不敵

実況見分調書に添付された問題の写真。手前が事故を起こした乗用車。白黒写真ではわかりにくいが、後方（拡大部分）に黄色い花が写っている



「証拠写真に季節はずれの花咲かせた」

ジャーナリスト 柳原二佳

「事故から一年以上たって初めて調書類を閲覧したのですが、本当に驚きました。八月の事故なのに十月の花が写り、そのうえ調書の中身はウソばかり。とにかく組織ぐるみで事実無根のデ

ッチ上げが行われたとしか思えません」

そう憤るのは、大分県の岡川忠生さん(60)、茂樹さん(57)兄弟だ。

今年九月に亡くなった父親の満さんは、四年前の交

通事故で左足切断、脳挫傷などの大けがを負った。と

ころが警察が作成した調書類は大幅に捏造されているとして、兄弟は十月十三日、

警察官らによる虚偽公文書作成の疑いで告発した。

告発状によると、実況見分調書に添付されていた写

真は、事故当日（一九九六

年八月三十日）の午後二時二十八分から五十一分の間に撮影された計七枚だったが、そのうち二時二十九分に撮影された加害車両の写真の背景に、セイタカアワダチソウの黄色い花が多数写っているというのだ。

大分県内で起きた交通事故をめぐつて、調書の写真捏造疑惑が浮上している。被害者側は「八月の事故なのに十月の花が写っているのは不自然」として、虚偽公文書作成の疑いで大分県警に告発した。調書の内容も、あまりに食い違う証言が出ている。不可思議な事故の真相を追つた。

（取材協力 朝日新聞社会部・松本健造）

